

奉打札所誓

馬琴作
合三冊

208
551

文記
二



国立国会図書館 奉打札所誓 3巻 208-551

ガラス使用

二代かごのきんれい 巡めぐり 奉打札所誓序
 再度また 警あかし 献けん 奉打札所誓序
 去歲こぞ 林鐘りんしょう 予よ 扁舟へんしゅう 棹しゅう 墨水の濱すみずみのなみ 涼すず 夏なつ 漸あ 向むか 暮くれ
 淺草寺せんそうじ の鐘かね 佛路ぶつろ と促うなが せり 逐舟しゆくしゅう と棄陸しりく と走は 行ゆ
 金龍山下きんりゅうさん 到いた る時とき 骨董店ぼんどうてん 上うへ 個こ 小冊せうさく あると云い へる。廻買まわい
 得え る携た ちり 更さら 小こ 校けう 正せい 画者えがし 就つ ぐとて 繡像しゅうざう 之の
 灰あ 聞き 近ちか 曾ぞう 復ふく 雜書ざしよ の小説せうせつ 頗な 稚蒙ちもう の爲ため 賞しょう 甘あま ると云い へる
 とも寸楮すんじよ の冊子さつし 詰つ と成な 文ぶん と下くだ 小こ とある也なり 予敢よあへ へ
 これらのあとを記し ぶ心こころ かりとしくとも書か 長なが の需ひ 黙もく 正せい ぐく
 多くあめあり。閱者えつしよ 覆あ 將せう の着き とあまらうと云い へる
 文化二年乙丑ぶんわににえんしう 春はる 子血しこけつ 者しよ 作堂しやくどう 小題せうだい 也



あつちのうらやまの
おさめいせのさあつとら
あつちのうらやまの
おさめいせのさあつとら
あつちのうらやまの
おさめいせのさあつとら



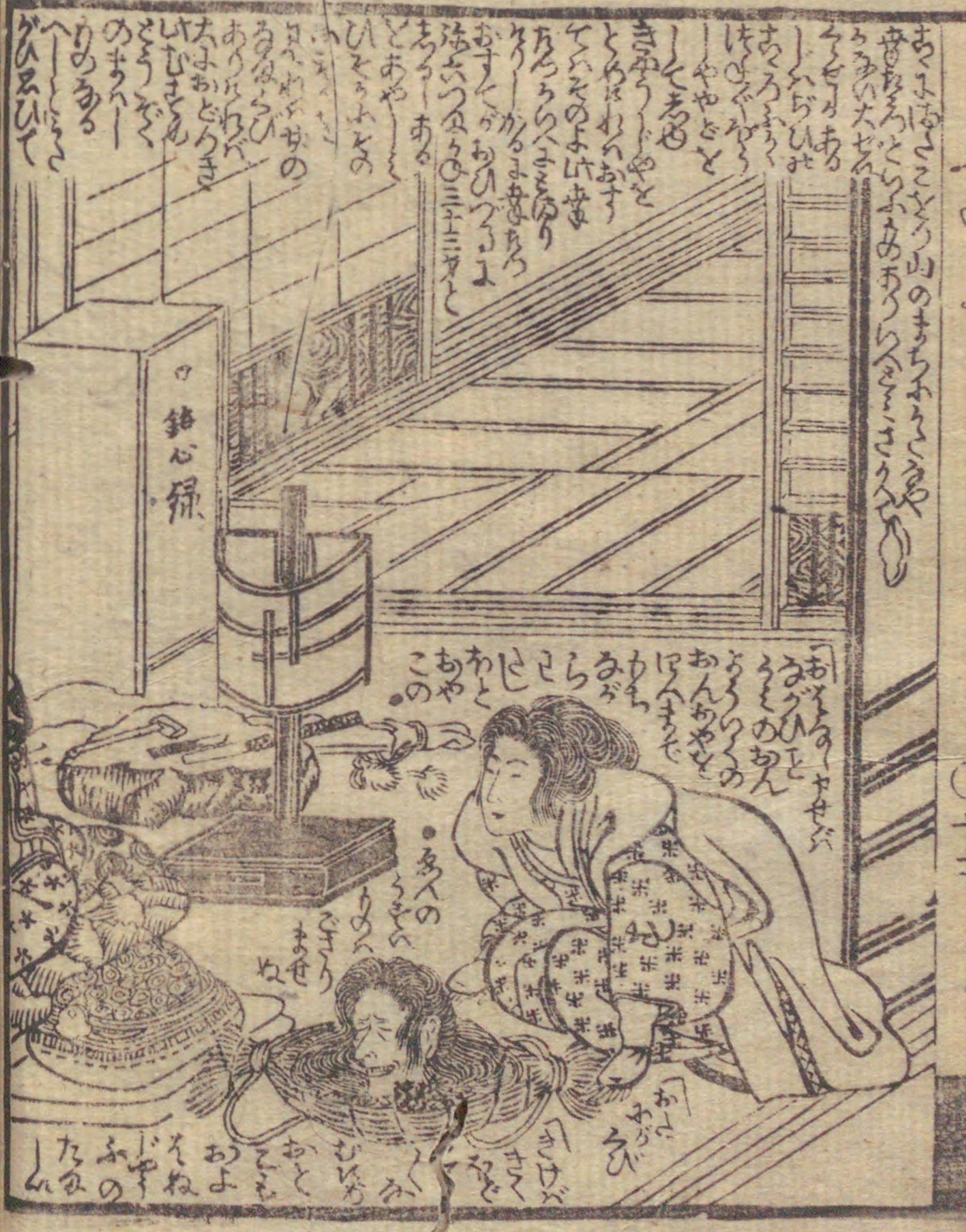
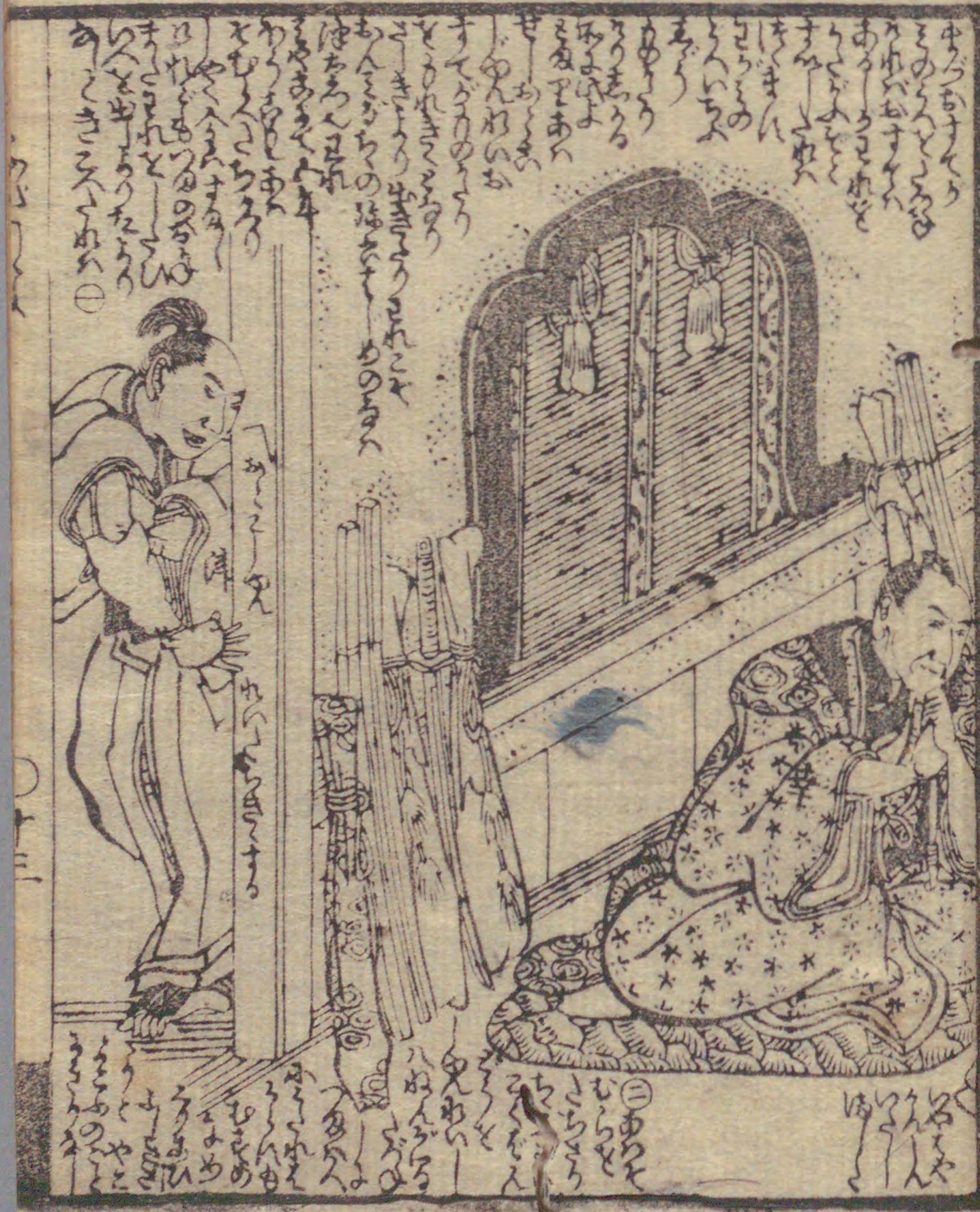
あつちのうらやまの
おさめいせのさあつとら
あつちのうらやまの
おさめいせのさあつとら
あつちのうらやまの
おさめいせのさあつとら

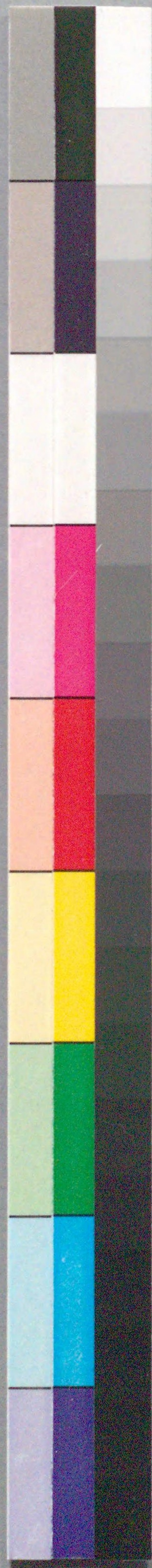




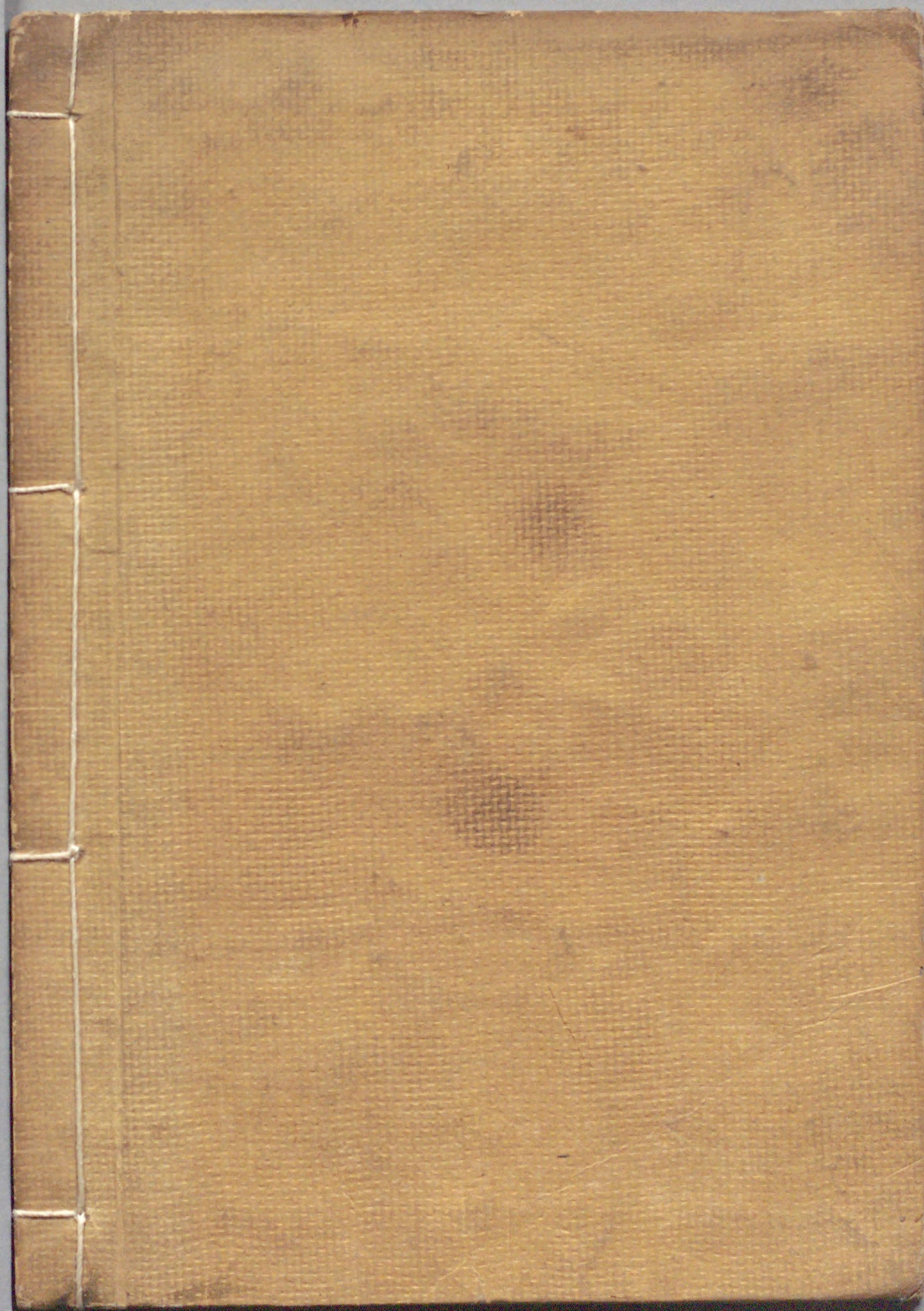








国立国会図書館 奉打札所誓 3巻 208-551



ガラス使用

